

日本語研修コース

深見兼孝

修了者

第66期 (2018年4月～2018年9月) [6名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学研究科
SAMARAKOON, SAMARAKOON, MUDIYANSELAGE MADHUWANTHI UDUMBARA, KUMARIHAMI	ウドゥンバラ	スリランカ	英語教育	広島大学教育学研究科
SYAFIQ FALIQ BIN AKFAN	シャフィク	マレーシア	芸術学	広島大学総合科学研究科
DEVILLE CACERES, DIEGO ARTURO	ディエゴ	ペルー	水圏生産科学	広島大学生物圏科学研究科
MUMBERE SAMUEL KIHEMBO	サムエル	ウガンダ	電気電子工学	広島大学工学研究科
XEDZRO, CHRISTIAN	クリスチャン	ガーナ	食品工学	広島大学生物圏科学研究科
NGUYEN THI LAN NGAN	ガン	ベトナム	教育学	広島大学教育学研究科

第67期 (2018年10月～2019年3月) [10名]

氏名	呼び名	国籍	専攻	大学研究科
GONG FUPENG	ゴン	中国	技術情報教育学	広島大学教育学研究科
BATLE JERSON MALLAVO	BJ	フィリピン	社会認識教育学	広島大学教育学研究科
GANZALEZ GONZALEZ, SAUL FRANCISCO	ゴンザレス	メキシコ	機械物理工学	広島大学工学研究科
JAHARN, THAENKAI	テン	タイ	機械物理工学	広島大学工学研究科
PRUNGPANICH,	アース	タイ	機械物理工学	広島大学工学

VACHIRAVIT				研究科
SRIRAMAN, THIRUVUR KUPPUSWAMY	スリ	インド	機械物理工学	広島大学工学 研究科
LUPITASARI, PUTRIDIAH	ピタ	インドネシア	化学工学	広島大学工学 研究科
LUGINA, FIKRY PURWA	ウギ	インドネシア	環境工学	広島大学工学 研究科
HIMAYA, ANDI NADIA	ナディア	インドネシア	輸送環境システム	広島大学工学 研究科
AL HALABI WALAA SHERIF MOHAMMED	ワラー	パレスチナ	生物学	広島大学理学 研究科

講師一覧

第66期（2018年4月～2018年9月）

専任 中川正弘 深見兼孝 柳本大地

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 杉本雅恵 渡辺久美

第67期（2018年10月～2019年3月）

専任 中川正弘 チャン, サリー 深見兼孝

非常勤 伊ヶ崎泰枝 後藤美知子 佐藤道雄 杉本雅恵 渡辺久美

第66期（2018年4月～2018年9月）予定表

	行事・試験など	見学	備考
4/3 - 4/6	4/3(火)11:00 オリエンテーション(K308)、13:30 開講式(学生会館レセプションホール) 4/5(木)授業開始		4/5(木)16:30 全学新入留学生オリエンテーション(総合科学部 L101)
4/9 - 4/13			
4/16 - 4/20			
4/23 - 4/27		4/27(金) 広島見学	
4/30 - 5/4	5/2(水)中間テスト1		4/30(月)昭和の日振替休日 5/3(木)憲法記念日(祝日) 5/4(金)みどりの日(祝日)

			5/5(土)こどもの日 (祝日)
5/7 - 5/11			
5/14 - 5/18			
5/21 - 5/25			
5/28 - 6/1	5/31(木)中間テスト 2	6/1(金)宮島見学	
6/4 - 6/8			
6/11 - 6/15			
6/18 - 6/22			
6/25 - 6/29			
7/2 - 7/6			
7/9 - 7/13			
7/16 - 7/20			7/16(月)海の日 (祝日)
7/23 - 7/27			
7/30 - 8/1	7/31(火)期末テスト	8/1(水) マツダ見学	
8/2 - 8/31	夏休み		
9/3 - 9/7	9/3(月) - 9/6(木)特別講義 9/7(金)成果発表会・修了式		

第 67 期 (2018 年 10 月～2019 年 3 月) 予定表

	行事・試験など	見学	備考
10/3 - 10/5	10/3(水)11:00 オリエンテーシ ョン(K308) 10/5(金)11:00 開講式 (学生プ ラザ 1 F)		
10/8 - 10/12	10/9(火)授業開始		10/8(月)体育の日 (祝日)
10/15 - 10/19			
10/22 - 10/26		10/26(金) 広島見学	
10/29 - 11/2	11/2(金)中間テスト 1		11/3(土)文化の日 (祝日)
11/5 - 11/9			
11/12 - 11/16			
11/19 - 11/23			11/23(金)勤労感謝の日 (祝日)
11/26 - 11/30		11/30(金)	

		宮島見学	
12/3 - 12/7			
12/10 - 12/14	12/14(金)中間テスト2		
12/17 - 12/21			
12/24 - 1/4	冬休み		
1/7 - 1/11			
1/14 - 1/18			1/14(月)成人の日 (祝日)
1/21 - 1/25		1/25(金) マツダ見学	
1/28 - 2/1			
2/4 - 2/8			
2/11 - 2/15			2/11(月)建国記念の日 (祝日)
2/18 - 2/22	2/22(金)期末テスト		
2/25 - 3/1	2/25(月) - 2/28(木)特別講義 3/1(金)成果発表会・修了式		

日本語教育部門：日本語・日本事情
(2018年4月～2019年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級ⅠA	1・1	2	2	35	41
総合日本語初級ⅠB	1・1	2	2	30	46
総合日本語初級ⅠC	1・1	2	2	36	38
総合日本語初級ⅠD	1・1	2	2	31	37
総合日本語初級ⅡA	1・1	2	2	19	24
総合日本語初級ⅡB	1・1	2	2	19	22
総合日本語初級ⅡC	1・1	2	2	18	21
総合日本語初級ⅡD	1・1	2	2	18	19
総合日本語中級ⅠA	1	2		21	
総合日本語中級ⅠB	1	2		30	
総合日本語中級ⅠC	1	2		19	
総合日本語中級ⅠD	1		2		21
総合日本語中級ⅠE	1		2		24
総合日本語中級ⅠF	1		2		19
総合日本語中級ⅡA	1	2		22	
総合日本語中級ⅡB	1	2		20	
総合日本語中級ⅡC	1	2		26	
総合日本語中級ⅡD	1				29
総合日本語中級ⅡE	1				27
総合日本語中級ⅡF	1				23

日本語聴解特別演習 A	1	2		27	
日本語聴解特別演習 B	1		2		17
日本語分析特別演習 A	1	2		33	
日本語分析特別演習 B	1		2		29
論文作成法 A	1	2		39	
論文作成法 B	1		2		16
日本語語彙特別演習 A	1	2		22	
日本語語彙特別演習 B	1		2		21
映像日本語特別演習 A	1	2		32	
映像日本語特別演習 B	1		2		27
* ビジネス日本語 B	1		2		15
日本語・日本文化特別研究 I A	4		4		2
日本語・日本文化特別研究 I B	4		4		1
日本語・日本文化特別研究 I C	4		4		2
日本語・日本文化特別研究 II A	4	4		2	
日本語・日本文化特別研究 II B	4	4		2	
日本語・日本文化特別研究 II C	4	4		1	

* 3ターム開設

・霞キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
総合日本語初級 I A	1・1	2	2	6	6
総合日本語初級 I B	1・1	2	2	8	11
総合日本語初級 II A	1・1	2	2	4	5

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	総合日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教員	石原淳也・サリ・チャン・伊ヶ崎泰枝・佐藤道雄・山中康子・尾形典子・坂田光美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験 第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験
テキスト	『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・レベル2

授業科目	総合日本語初級ⅡA・ⅡB・ⅡC・ⅡD
担当教員	下村 真理子・杉本 雅恵・上村 貴世子
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1) 第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2) 第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)
テキスト	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ レベル 3

授業科目	総合日本語中級 I A ・ I B
担当教員	山中 康子
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： ファストフード、地震、最近の子ども、日本のイメージ、睡眠、日本人の発明、リサイクルとフリーマーケット、あいづち、男の仕事・女の仕事
テキスト	『中級へ行こう－日本語の文型と表現 5 5 第 2 版』 (スリーエネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I C
担当教員	坂田 光美
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴 合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、 道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、 砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、 「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、 新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、 留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか 缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	『新・毎日の聞き取り 5 0 日 vol. 2』 (凡人社)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I D・I E
担当教員	山中 康子
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 本授業では次のトピックを扱う： 音楽と音の効果、いい数字・悪い数字、「おもしろい」日本、くしやみ、わたしの町、この日に食べなきゃ意味がない！、お相撲さんの世界、第一印象
テキスト	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 5 6』 (スリーエネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級 I F
担当教員	坂田 光美
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： もしもし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	『新・毎日の聞き取り 50日 vol.1』 (凡人社)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ レベル 4

授業科目	総合日本語中級ⅡA・ⅡB
担当教員	杉本 雅恵・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き／～向け、～における、～上、～うえで、～なり、VたN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82』 (スリーエネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡC
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	本授業では、次のようなトピックスを扱う： 回転寿司、郵便局からのお知らせ、名前のない手紙、 成績と朝ごはん、地震に強いビル、いちばん上の子、結婚相手、 太鼓のひびき、睡眠不足、お菓子のおまけ、進化するロボット、 人類はメン類、日本を知らない日本人、よみがえった日本の技術 若い登山家、変化する就職活動、三年寝太郎、屋上の緑化、 英語力や資格は必要ですか、燃料電池自動車
テキスト	『毎日の聞き取りplus40 下』 (凡人社)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡD・ⅡE
担当教員	杉本 雅恵・坂田 光美
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならぬ、～まま、～ようとしぬ、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	『テーマ別中級から学ぶ日本語』（研究社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	総合日本語中級ⅡF
担当教員	山中 康子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1)イラストによって、教材の内容を概観する。 (2)関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3)教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4)タスクに答える。 (5)話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6)語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7)音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	『毎日の聞き取りplus40 上』（凡人社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ レベル5

授業科目	日本語聴解特別演習 A
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	日本語聴解特別演習 B
担当教員	深見 兼孝
目 標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内 容	第1回～第7回 金融 第8回～第9回 政治・行政 第10回～第15回 社会・生活 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ニュースの日本語聴解50』
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	日本語分析特別演習 A
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	日本語分析特別演習 B
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	論文作成法A
担当教員	後藤 美知子
目 標	論文を書くための知識を習得する。
内 容	<p>配布資料にしたがって、論文の構成、作成のための準備、論文に必要な表現などを、受講生の討議を通して、学ぶ。</p> <p>(1)オリエンテーション、アンケート作成法について (2)基本的なステップ～テーマの決定について (3)資料収集について (4)アウトラインについて (5)情報の整理について (6)アウトラインの決定について (7)レポートの執筆について (8)中間試験 (9)段落について (10)引用・注について (11)図表の説明・参考文献表について (12)～(14)文体・表現 (15)期末試験</p>
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	論文作成法B
担当教員	後藤 美知子
目 標	レポートや論文などの学術的文章に用いられる文型・表現を知る。
内 容	<p>教科書の例文などを通して、論文などに必要な文型・表現を学ぶ。</p> <p>(1)オリエンテーション、アンケート作成法 (2)作文の基本 (3)課題の提示 (4)目標の提示 (5)定義と分類 (6)図表の提示 (7)変化の形容 (8)対比と比較 (9)原因の考察 (10)列举 (11)引用 (12)同意と反論 (13)帰結 (14)結論の提示 (15)試験</p>
テキスト	『(改訂版)「留学生の日本語」④論文作成編』アルク
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 A
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喻表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	日本語語彙特別演習 B
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 疊語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	映像日本語特別演習 A
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	発表討論への参加・レポート

授業科目	映像日本語特別演習 B
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	発表討論への参加・レポート

授業科目	ビジネス日本語B
担当教員	千馬 智子
目 標	職場のコミュニケーションにおける日本語を学び、場面に適切な表現の運用力を養成する。
内 容	第1回 紹介する/名刺交換など、 第2回～第3回 あいさつをする 第4回～第5回 電話をかける・受ける、 第6回～第7回 注意をする・注意を受ける、 第8回 中間試験、 第9回～第10回 頼む・断る、 第11回～第12回 許可をもらう、 第13回 アポイントをとる/約束を変更する 第14回 訪問する/取次を頼む他 第15回 総復習 第16回 期末試験
テキスト	『にほんで働くービジネス日本語30時間ー』 (スリーネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ 特定研究

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅰ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、日本語・日本文化特別講義Ⅰ～Ⅵ、地域研修Ⅰ～Ⅵ、研修レポート構想発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	発表討論への参加・レポート・宿題

授業科目	日本語・日本文化特別研究Ⅱ
担当教員	中川 正弘・田村 泰男・石原 淳也
目 標	一連の特別講義、および見学・実習から、高度な日本語の知識や運用能力を身に付け、日本および広島周辺の社会・文化についての理解を深める。
内 容	日本語・日本文化研修プログラムの一環として、日本語・日本文化に関する講義、日本および広島周辺地域における社会、産業、文化を理解するための実地研修ならびに研究指導を行なう。 オリエンテーション、研修レポート構想発表、日本語・日本文化特別講義Ⅶ～Ⅻ、域研修Ⅶ～Ⅻ、研修レポート要旨発表
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
成績評価	発表討論への参加・レポート・宿題

(霞キャンパス)

・ レベル 1

授業科目	総合日本語初級 I A ・ I B
担当教員	渡部 浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	ガイダンス、ひらがな、毎日の挨拶、ひらかな練習、自己紹介、カタカナ、疑問表現、かな練習、提示の表現、目的語、日常活動の表現、時間表現、行動予定の表現、完了時制 1)、移動の動詞、時の表現、勧誘の動詞、存在の動詞、位置の表現、目的の表現、授受の表現、形容詞、完了時制 2)、希望の表現、好悪・程度の表現、比較・最上級、期末試験
テキスト	『Basic Japanese for Students はかせ I』 (スリーエーネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ レベル 2

授業科目	総合日本語初級 II A
担当教員	渡部 浩見
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	ガイダンス、レベルチェック、初級 1 の復習、理由の表現、丁寧表現、助数詞、依頼表現、継起的動作、時間・期間の表現、進行中の動作、習慣・家族について話す、許可・禁止の表現、動詞の否定形、経験の表現、助言・提案の表現、スケジュールをメモする、動詞の辞書形、可能表現、趣味を語る、名詞句、意見を述べる、伝言を伝える、普通体の使い方、同時制の従属節、条件・譲歩の従属節、話し言葉の文体、状態の変化、お礼の手紙を書く、期末試験
テキスト	『Basic Japanese for Students はかせ II』 (スリーエーネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験

日本語教育部門：留学生関係科目
(2018年4月～2019年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧
・東広島キャンパス

授 業 科 目	開 設 単位数	学期別週授業時数		受講登録者数	
		前 期	後 期	前 期	後 期
Elementary Japanese I A	2		2		15
Elementary Japanese I B	2		2		9
Elementary Japanese I C	2		2		12
Elementary Japanese I D	2		2		13
Elementary Japanese II A	2・2	2	2	0	16
Elementary Japanese II B	2・2	2	2	0	16
Elementary Japanese II C	2・2	2	2	0	16
Intermediate Japanese I A	2		2		29
Intermediate Japanese I B	2		2		28
Intermediate Japanese I C	2		2		46
Intermediate Japanese I D	2	2		9	
Intermediate Japanese I E	2	2		10	
Intermediate Japanese I F	2	2		6	
* Intermediate Japanese I G - 1	1		2		34
**Intermediate Japanese I G - 2	1		2		29
Intermediate Japanese II A	2		2		71
Intermediate Japanese II B	2		2		72
Intermediate Japanese II C	2		2		53
Intermediate Japanese II D	2	2		24	
Intermediate Japanese II E	2	2		25	

Intermediate Japanese II F	2	2		23	
* Intermediate Japanese II G - 1	1		2		49
**Intermediate Japanese II G - 2	1		2		52
Advanced Japanese A (Listening)	2	2		40	
Advanced Japanese B (Listening)	2		2		36
Advanced Japanese A (Analysis)	2	2		49	
Advanced Japanese B (Analysis)	2		2		42
Academic Writing A	2	2		41	
Academic Writing B	2		2		46
Advanced Japanese A (Lexical)	2	2		50	
Advanced Japanese B (Lexical)	2		2		45
Advanced Japanese A (Cinema)	2	2		27	
Advanced Japanese B (Cinema)	2		2		36
*Business Japanese B - 1	1		2		37
**Business Japanese B - 2			2		35

* 3ターム開設

** 4ターム開設

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

・レベル1

授業科目	Elementary Japanese I A・I B・I C・I D
担当教員	サリー・チャン・伊ヶ崎 泰枝・佐藤 道雄・尾形 典子
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	<p>第1週－第8週 ひらがな、カタカナと日本語の発音、あいさつ、数詞、名詞文、指示詞、時間表現、自動詞文、移動の動詞、他動詞文、斜格助詞、形容詞、目的語+が、存在表現、数量詞、比較、中間試験</p> <p>第9週－第15週 要求・希望、テ形、許可・禁止、進行、連続した行為、ナイ形、禁止、義務、辞書形、普通形過去、引用、関係節、時を表す従属節、授受動詞、条件節、期末試験</p>
テキスト	『みんなの日本語初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・レベル2

授業科目	Elementary Japanese II A・II B・II C
担当教員	恒松 直美
目 標	初級後半レベルの基礎的な語彙・文型・表現を学習し、併せて種々の場面に応じた実用的な日本語表現能力を習得させる。
内 容	<p>第1週－第5週 依頼表現、可能表現、継続・習慣の表現、理由の表現、意志・予定の表現、完了表現、自動詞／他動詞、推量表現、忠告の表現、命令・禁止表現、テスト(1)</p> <p>第6週－第10週 時間表現、付帯状況の表現、条件表現、目的・目標の表現、状態変化の表現、受身表現、形式名詞、理由・原因の表現、疑問詞疑問文、試行の表現、テスト(2)</p> <p>第11週－第15週 授受表現、目的の表現、様態の表現、移動の表現、難易表現、伝聞表現、使役表現、敬語、テスト(3)</p>
テキスト	『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）
成績評価	発表討論への参加・宿題・試験・小テスト

・ レベル 3

授業科目	Intermediate Japanese I A ・ I B
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読みとる読解力を身に付け、さらにその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	『日本語2ndステップ』（白帝社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I C
担当教員	下村 真理子
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの説明文や解説文の聞き取り能力を養うとともに総合的な日本語能力を高める。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 授業では次のトピックを扱う： ももし、旗のデザイン、海からの便り、カラスのカー子ちゃん たためるピアノ、日本人と果物、待つ時間・待たせる時間、震度3、世界の人口、牛丼の作り方、ドライアイ、日本の地方都市、横断歩道、弁当の日、コンビニ図書館、右回りの時計、目にやさしい色、上手に泣いて、ストレス解消、阿波踊り、富士山が見えるところ、アニメ文化の輸出、十二支の話、東京を回る山手線、どんな結婚披露宴がいい？、通話をやめた若者
テキスト	『新・毎日の聞き取り50日 vol.1』（凡人社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I D・I E
担当教員	石原 淳也
目 標	中級レベルの長文を読み、内容を理解する能力を身に付ける。今までに学んだ基本的な表現を使って、日本語で議論をしたり自分の意見を表現できるようにする。
内 容	その課に出てくる文型、語彙等について解説を加えた後、長文を読み内容を理解したうえで、長文の内容についての質問に答える。適宜、トピックに関連した日本文化についての解説を加える。 第1週～第7週 新宿、工場見学、方言、思い出の人形、日本間、青と緑、テスト 第8週～第15週 マンガ、志のままに、すし、河童、寄席、睡眠、テスト
テキスト	『日本語2ndステップ』（白帝社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I F
担当教員	下村 真理子
目 標	さまざまな形式の文章表現を耳から理解できるようになる。
内 容	1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。 2) スクリプトを使用した様々な練習をすることによって、総合的な日本語力を身につける。 3) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。 本授業では次のトピックを扱う： いただきます、川を渡る、車は左、人は右？、千羽鶴、合格は誰のおかげ？、時差ぼけ、小判がこわい、道路からメロディー、カラオケ発明者にノーベル賞？、砂糖の消費量、盆栽、駅伝、波力発電、河童、「もったいない」を国際語に！、思いがけない援助、新幹線の顔、ビルの地下の野菜畑、イルカは頭がいい？、留学生文学賞、菜の花プロジェクト、今日は何色のスーツですか、缶コーヒーの値段、あがらないためには、国際宇宙ステーション
テキスト	『新・毎日の聞き取り50日 vol.2』（凡人社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I G-1
担当教員	名塩 征史
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの文章の聞き取り能力を養うとともに、総合的な日本語能力を高める。
内 容	<p>1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。</p> <p>2) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。</p> <p>第1回 物の貸し借り 第2回 断りの表現 第3回 予定の変更 第4回 理由の説明 第5回 レストランでの会話 第6回 旅行 第7回 買い物 第8回 試験</p>
テキスト	『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1』（くろしお出版）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese I G-2
担当教員	名塩 征史
目 標	音声教材を用いて、一定の長さの文章の聞き取り能力を養うとともに、総合的な日本語能力を高める。
内 容	<p>1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。</p> <p>2) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。</p> <p>第1回 アルバイト 第2回 褒めの表現 第3回 交通手段 第4回 マンションの契約 第5回 苦情 第6回 規則の説明 第7回 自己紹介 第8回 試験</p>
テキスト	『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編1』（くろしお出版）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ レベル 4

授業科目	Intermediate Japanese II A・II B
担当教員	田村 泰男・柳本 大地
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習し、部分作文によって新出項目の定着を図る。授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～ながら、～まい、～わけだ、～でも、～ほど、～なら、～ても、～てくる、～てしまう、～ながら、～よう、～がる、～ことにする／なる、～とか～とか、～させる、～てたまらない、～たばかり、～ものだ、～てみる、～中、～し～し、～かもしれません、～つもり、～くらい、～なければならぬ、～まま、～ようとなし、～たものだ、～から～にかけて、～ものの、～やら～やら、～につれて、～ば～ほど、～として、～によって、～ところ、～にとって、～はずだ、～さえ、～うちに、～はずがない
テキスト	『テーマ別中級から学ぶ日本語』（研究社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II C
担当教員	柳本 大地・下村 真理子・尾形 典子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前に先ず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	『毎日の聞き取りplus40 上』（凡人社）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II D・II E
担当教員	田村 泰男
目 標	中級レベルの文法・語彙・表現の定着を図るとともに長文読解能力を養成する。
内 容	トピックに基づいて書かれた日本語中級学習者用の読解教材を読み進みながら、中級レベルの文型・語彙・表現を学習する。 授業では、特に次の語彙・表現の解説を行う。 ～という、～に基づく～、～と同時に、～による、～際、～にかけて、～さえ、～なんて、こと、～を問わず、～をめぐって、～ところ、～向き、～向け、～における、～上、～うえで、～なり、V たN、～という点、～にかかわる、～をもたらす、～に対して／～にとって、～ばかり／～だけ、～を通して／～を通じて、～ぶり、～とはいえ、～当たり、たとえ～も、～やら～やら、～に関する～、～限り、～がち、～っぱなし、～以上、～抜き～、～おかげで／～せいで、～にもかかわらず、～につれて、～に例える、～に違いない、～得ない／～得る、～っぽい、～にしても、～つつ、～めく、～かのように、～結果、～に比べて、もの
テキスト	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82』 (リー-ネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II F
担当教員	下村 真理子・尾形 典子
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力を伸ばす。
内 容	教材を聴く前にまず、 (1) イラストによって、教材の内容を概観する。 (2) 関連語彙や、背景となる知識を導入する。 (3) 教材の内容に関する短い文章を読み、クイズに答える。 教材を聴いた後 (4) タスクに答える。 (5) 話題に関連した補足説明を読み、知識を深める。 (6) 語彙、表現の定着を図るために、口頭練習を行う。 (7) 音声言語としての日本語についての理解を深める。
テキスト	『毎日の聞き取りplus40 下』 (凡人社)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II G-1
担当教員	名塩 征史
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力をのばす。
内 容	<p>1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。</p> <p>2) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。</p> <p>第1回 伝言の表現 第2回 電話の表現 第3回 勧誘の表現 第4回 許可の表現 第5回 情報伝達の表現 第6回 依頼の表現 第7回 指示の表現 第8回 試験</p>
テキスト	『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中上級編』（くろしお出版）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Intermediate Japanese II G-2
担当教員	名塩 征史
目 標	身近なトピックにより、日本に対する理解を深めるとともに、多様な場面や状況を理解し、語彙を増やす。聞き取りだけでなく、多角的な練習により、総合的な日本語の力をのばす。
内 容	<p>1) トピックに関するCDを聞いて質問に答え、内容を理解する。</p> <p>2) 内容について話し合ったり、要約文を書いたりする。</p> <p>第1回 文句の表現 第2回 謝罪の表現 第3回 言い訳の表現 第4回 要求の表現 第5回 提案の表現 第6回 感想の表現 第7回 挨拶の表現 第8回 試験</p>
テキスト	『聞いて覚える話し方 日本語生中継 中上級編』（くろしお出版）
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

・ レベル5

授業科目	Advanced Japanese A (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	ラジオドラマの日本語を聞き取る力を養成する。
内 容	第1回～第4回 出会い 第5回～第7回 江夏 第8回～第10回 野球場 第11回 再会 第12回～第14回 プレゼント 第15回 エピローグ 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認
テキスト	『ラジオドラマCD博士の愛した数式』
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Listening)
担当教員	深見 兼孝
目 標	講演の日本語の内容を聞き取る能力を身につける。
内 容	第1回～第7回 金融 第8回～第9回 政治・行政 第10回～第15回 社会・生活 各回とも、語句のチェック、聞き取り練習、スクリプトによる確認の順で授業を進める。
テキスト	『ニュースの日本語聴解50』
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 前期は日本語への翻訳、要約を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese B (Analysis)
担当教員	中川 正弘
目 標	日本語で文章を綴ることに慣れ、自分たち外国人の日本語を日本人の日本語と比較分析することで日本語の理解を深める。
内 容	自分の使う日本語をはっきりと目に見える形にするために、毎週日本語作文を提出してもらおう。その作文は自分の書いた文章と書き直しが客観的に対照しやすいようにワープロ編集をして返すので、自分の日本語の問題点を考える。授業ではそれらの日本語作文から間違っている文、あるいは何か問題がある文を例に選び、時には何通りもある書き直し方や関連するさまざまな文法、表現の例と比較しながら、日本人の日本語がどのような感覚、心理、考え方を土台としているかを分析し、さまざまな文体的事象について解説していく。 後期は報告文、説明文を多く扱う。
テキスト	用例のプリントを毎回配布する。
成績評価	提出作文、テスト

授業科目	Advanced Japanese A (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	常用漢字に採択されている漢字の訓読みや慣用句、擬音語・擬態語を学習することによって、より自然な日本語表現能力の習得を目指す。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 漢字の訓読み 2. 同訓異字 3. 各種比喩表現 4. 身体語彙を使った慣用句 5. 動植物の語彙を使った慣用句 6. 擬音語・擬態語
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese B (Lexical)
担当教員	田村 泰男
目 標	慣用的な読み方をする漢字や類義語、接頭辞・接尾辞などを学習することによって、日本語での表現能力を高めるとともに、各種類意表現のもつ意味上の微妙な違いについての理解をはかる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別な読み方をする漢字 2. 送り仮名によって読み方の違う漢字 3. 読み方が二通りある漢字熟語 4. 国字 5. 暁語 6. 類義語・類意表現 7. 若者語 8. 外来語 9. 接頭辞・接尾辞
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Advanced Japanese A (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと、2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと、3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること、4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	第1週-第9週 「金融腐食列島」を最後まで見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。 第10週-第15週 「うる星やつら」を見た後、もう一度最初から少しずつ音声、語彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	発表討論への参加・レポート

授業科目	Advanced Japanese B (Cinema)
担当教員	石原 淳也
目 標	日本映画・アニメーションを見ていく中で、 1)日本語の音声に関する解説および聞き取り練習を行うこと 2)セリフに出てくる語の用法・意味の解説を通じて語彙を増やすこと 3)映画の中で出演者がなぜそのように振る舞うかということを通じて日本人の考え方を理解すること 4)映画の中で扱われるエピソードを通じて日本の文化を知ること为目标とする。
内 容	映画・アニメーションを見た後、もう一度最初から少しずつ音声、彙、行動等について質問、解説を行う。
テキスト	必要に応じプリントを配布。
成績評価	発表討論への参加・レポート

授業科目	Academic Writing A
担当教員	後藤 美知子
目 標	論文を書くための知識を習得する。
内 容	<p>配布資料にしたがって、論文の構成、作成のための準備、論文に必要な表現などを、受講生の討議を通して、学ぶ。</p> <p>(1)オリエンテーション、アンケート作成法について (2)基本的なステップ～テーマの決定について (3)資料収集について (4) アウトラインについて (5)情報の整理について (6) アウトラインの決定について (7)レポートの執筆について (8)中間試験 (9)段落について (10)引用・注について (11) 図表の説明・参考文献表について (12)～(14)文体・表現 (15)期末試験</p>
テキスト	プリントを配布する。
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Academic Writing B
担当教員	後藤 美知子
目 標	レポートや論文などの学術的文章に用いられる文型・表現を知る。
内 容	<p>教科書の例文などを通して、論文などに必要な文型・表現を学ぶ。</p> <p>(1)オリエンテーション、アンケート作成法 (2)作文の基本 (3)課題の提示 (4)目標の提示 (5)定義と分類 (6)図表の提示 (7)変化の形容 (8)対比と比較 (9)原因の考察 (10)列挙 (11)引用 (12)同意と反論 (13)帰結 (14)結論の提示 (15)試験</p>
テキスト	『(改訂版)「留学生の日本語」④論文作成編』アルク
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Business Japanese B-1
担当教員	千馬 智子
目 標	職場のコミュニケーションにおける日本語を学び、場面に適切な表現の運用力を養成する。
内 容	第1回 紹介する/名刺交換など 第2回 (1)あいさつをするー休んだり早退したりした時ー 第3回 (2)あいさつをするー昇進や帰国のあいさつー 第4回 (1)電話をかける・受けるー伝言を頼むー 第5回 (2)電話をかける・受けるー伝言を受けるー 第6回 (1)注意をする・注意を受けるー苦情を言う・あやまるー 第7回 (2)注意をする・注意を受けるー苦情を受ける・アドバイスを受けるー 第8回 試験
テキスト	『にほんで働くービジネス日本語30時間ー』(スリーエーネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

授業科目	Business Japanese B-2
担当教員	千馬 智子
目 標	職場のコミュニケーションにおける日本語を学び、場面に適切な表現の運用力を養成する。
内 容	第1回 (1)頼む・断るー上司に依頼する他ー 第2回 (2)頼む・断るー上司の依頼を断る他ー 第3回 (1)許可をもらうー許可求めー 第4回 (2)許可をもらうー早退する他ー 第5回 アポイントをとる/約束を変更する 第6回 訪問する/取次を頼む他 第7回 総復習 第8回 試験
テキスト	『にほんで働くービジネス日本語30時間ー』(スリーエーネットワーク)
成績評価	発表討論への参加・試験・宿題

第33期 (2017 - 2018) 日本語・日本文化研修プログラム

石原淳也

<プログラム概要>

本プログラムは、本国際センター（2010年に旧留学生センターから改組）で受け入れる大使館推薦による「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を中心に、部局間協定に基づき教育学部で受け入れられている「日本語・日本文化研修プログラム」研修留学生を対象に加え、国際センターの四人の教員からなる「日本語・日本文化研修プログラム実施委員会」により運営されており、(1) 全学の留学生向けの「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修する「日本語研修」、(2) 学内、学外の講師による特別講義および文化施設・文化財等の見学などからなる「日本語・日本文化特別研究 I, II」、そして (3) 指導教員のもとでの「個別指導および課題研究」の三つの内容により構成されている。

研修生は「個別指導および課題研究」での研究経過を「日本語・日本文化特別研究 I, II」の時間中に構想発表および中間発表として発表するとともに、修了式の前に行われる研修成果発表会においてその研究の成果を発表し、指導教員と国際センターにレポートを提出する。国際センターでは毎年これらをまとめて研修レポート集として刊行している。

<受け入れ学生の概要>

第33期は国際センター受け入れのインドネシア、ミャンマー、インド、アゼルバイジャンからの学生それぞれ1名、部局間協定に基づく教育学部受け入れのニュージーランドからの学生が1名の計5名でプログラムを実施した。

<特別講義等>

2017年度(第33期)に実施した日本語・日本文化特別研究、および、その他の行事は、以下の通りである。

		(担当者)
10月		
4日	開講式 オリエンテーション	中川
6日	プレイスメント・テスト1	
13日	プレイスメント・テスト2	
20日	広島見学1(広島城・平和公園)	石原
27日	特別講義「音声学」	石原
11月		
10日	広島見学2(現代美術館/放射線影響研究所)	中川
17日	特別講義「現代日本語の語彙 I」	田村
24日	特別講義「日本語と文体 I」	中川
12月		
1日	宮島見学	石原
8日	特別講義「現代日本語の語彙 II」	田村
15日	特別講義「俳句入門」	浮田
22日	マツダ見学	石原
1月		
12日	特別講義「第二言語としての日本語の習得」	畑佐
19日	特別講義「グローバル社会における日本の大学と地域」	恒松
26日	特別講義「インド仏教と日本文化」	本田
3月		
28-29日	瀬戸内海しまなみ研修ツアー	中川
4月		
6日	プレイスメントテスト1	
13日	プレイスメントテスト2	
20日	研修レポート構想発表	石原
27日	特別講義「日本語と文体2」	中川
5月		
2日	金曜日授業	
4日	ゴールデンウィーク	
11日	サタケ見学	中川
18日	尾道見学	田村

25日	特別講義「日本語と方言 - 沖縄のことば -」	多和田
6月		
1日	特別講義「比較言語文化論の視点」	浮田
15日	呉見学：大和ミュージアム+倉橋島：長門の造船歴史館	中川
22日	中間発表準備	
24日	ホームステイ協会交流会	中川
29日	特別講義「古事記と日本神話」	石原
7月		
6日	研修レポート中間発表	石原
13日	月曜日授業	
20-21日	松江・出雲見学旅行	石原
9月		
7日	研修成果発表会、修了式	石原

第 19 期 平成 30 年度 (2018 年度) 日韓共同理工系学部留学生事業入学前予備教育

石原淳也

平成 10 年 10 月の「日韓共同宣言」、平成 12 年 8 月に文部省より通知のあった「日韓共同理工系学部留学生事業実施要項」、同年 8 月に決定された「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施要項および「広島大学日韓理工系学部留学生事業」入学前予備教育実施要項に基づき、平成 12 年 11 月より広島大学においても学部入学前予備教育生に対する「広島大学日韓理工系学部留学生事業」の予備教育が開始された。以来、平成 15 年度まで各 5 名ずつ、平成 16 年度 2 名、17 年度 5 名、18 年度 4 名、19 年度、20 年度は 5 名、21 年度 2 名、22 年度 5 名、23 年度 5 名、24 年度は 6 名と、途切れることなく学部入学前予備教育生を受け入れ、25、26、27、28 年度が 7 名、29 年度は 6 名、今 30 年度は再び 7 名を受け入れることとなった。今年度は 1 名が理学部、6 名が工学部への進学を予定しており、その内訳は、理学部が化学科、工学部では第一類と第三類への進学予定者が 2 名ずつ、第二類と第四類への進学予定者が 1 名ずつとなっている。

旧留学生センターは同事業の立ち上げ段階である平成 12 年 6 月の「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」ワーキンググループの発足段階から同事業の予備教育実施機関として中心的な役割を果たしてきた。法人化による国際交流委員会の廃止で、平成 16 年度より 21 年度まで「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は留学生センター運営委員会のもとに組織されてきたが、22 年度からは、旧留学生センターの改組に伴い、留学生センター運営委員会が廃止されたため、「広島大学日韓理工系学部留学生事業」実施部会は国際センター長を部会長として国際センターの下に組織されていた。平成 30 年度、後期より国際センターは森戸国際高等教育学院へと改組されたが、メンバーの入れ替えはあったものの、実施部会の体制は 29 年度のまま維持され、旧国際センター長丸山教授が部会長、森戸国際高等教育学院からは石原准教授が委員・副部会長として部会に参加している。

本事業において森戸国際高等教育学院は、旧国際センターの機能をそのまま引き継ぎ、

1. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」実施部会への参加
2. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の実施
3. 学部入学前予備教育生に対する修学上・生活上の指導・助言
4. 「広島大学日韓共同理工系学部留学生事業」予備教育の計画策定

5. 見学引率
6. 日本語教育謝金講師の指導・サポート
7. その他謝金講師のサポート
8. 学生チューターの指導

等の業務を行っている。

【本学で実施する予備教育について】

・日本語科目

平成 15 年度までは、入学前予備教育において、日韓共同理工系学部留学生用に特別の日本語教育を実施していたが、平成 16 年度からは全学の留学生に向け開講されている「日本語・日本事情」を履修させることとなった。また、学生の日本語能力に合わせ、レベル 3, 4 を履修させていたが、半年後の 4 月からは日本人に交じって、日本語で全ての授業を受けねばならない状況を考慮し、22 年度からはレベル 4, 5 を履修させることとなった。しかしながら、レベル 4 で使用されている教科書が、韓国国内で行われている予備教育の前半課程において開講されている一部の日本語の授業で使われていることから、25 年度より、全学向けのレベル 4 の授業の代わりに、本予備教育生のためだけにレベル 4 相当の授業を二コマ 15 週にわたって開講することとなった。なお、従来より、学生の日本語能力の差にきめ細かく目配りできるよう、本予備教育生のみを対象とした日本語会話、日本語作文、日韓文化論を各 1 コマ開設している。

・専門科目

本学では第一期から、日本語とともに、数学、物理、化学に加え、学生が生物系に進学する可能性がある場合は生物も含めた理系科目を開設している。以前は、大学院生を講師に、大学入試レベルの問題演習を通して、入学後、日本語で実施される授業に十分ついて行けるだけの基本的な学力、授業を理解するのに最低限必要な日本語力を身につけさせるというものであったが、23 年度からは、広島大学マスターズという広大を退職された先生方の団体に講師を依頼することになり、授業内容も従来からの問題演習中心のものではなく、大学入学後、教養教育で行われる授業の基本的な内容を先取りし、講義の形で行うものとなっている。

また、英語に関しては外国語教育センターの全学向け「英語研修プログラム」から自分にあったものを選び、一コマ受講するようになっている。

なお、本年度における時間割、行事は次ページの通り。

時間割

	月	火	水	木	金
1					日本語会話 坂田
2		日本語中級 A 杉本	数学 今岡	日本語中級 B 尾形	日韓比較文化論 坂田
3		生物 渡辺、設楽、榊井	映像日本語 特別演習 B 石原	化学 谷本・平田	日本語作文 坂田
4	日本語聴解 特別演習 B 深見	物理 (後半 5 回) 松尾	物理 (前半 5 回) 渡邊	日本語分析 特別演習 B 中川	
5	英語 (1 コマ)				

行事

	期間	行事等	見学(金曜)	備考
W0	10/1-10/6	1(月)渡日 5(金)開講式 オリエンテーション 9(火)授業開始		
W1	10/7-10/13	9 体育の日	終日 広島見学(広島城・平和公園)	月なし
W2	10/14-10/20			
W3	10/21-10/27			
W4	10/28-11/3	3 文化の日		
W5	11/4-11/10			
W6	11/11-11/17			
W7	11/18-11/24	23 勤労感謝の日		金なし
W8	11/25-12/1		終日 宮島見学	
W9	12/2-12/8			
W10	12/9-12/15		マツダ見学	
W11	12/16-12/22			
W12	12/23-12/25	23 天皇誕生日		月なし
		冬休み(12/26-1/4)		
W12	1/6-1/12			
W13	1/13-1/19	14 成人の日		月なし
W14	1/20-1/26			
W15	1/27-2/2			
W16	2/3-2/9			
W17	2/10-2/16	11 建国記念日		
W18		春休み(2/14-)		
	3月中下旬	修了式		

広島大学短期交換留学(HUSA)プログラム活動報告

恒松直美・堀田泰司

沿革

1993年に日米文化教育交流会議 (The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange : 通称カルコン CULCON) が開催され日米間の学生交流の促進が謳われ、政府支援の下、1995 - 96年に8国立大学が短期学生交流プログラムを開始した。広島大学短期交換留学プログラム (Hiroshima University Study Abroad Program, 以下 HUSA プログラム) は、その8国立大学の1つとして、1996年に開始され、これまで積極的に学生交流を促進してきた。よって、当初の本学の短期交換留学プログラムの目的は、米国の高等教育機関との交流を中心とするものであった。しかし、プログラムは徐々に拡大し、現在は、世界中に点在する協定大学 94 大学及び 2 コンソーシアム (University Studies Abroad Consortium, USAC 及び University Mobility in Asia and the Pacific, UMAP, アジア太平洋大学交流機構) と交流を行っており、交換留学生受入れ・派遣留学を通して学生に異文化を体験させるだけでなく、留学しない本学のキャンパスで学習する学生に対しても異文化交流の機会を提供し、より多くの学生に国際教育の場を提供している。

教育内容としては、世界中の留学生が本学で学べるように英語による特別科目を開講し、より質の高い教育を提供するよう努力している。近年では、留学生に対し、新しく学生主導型で進める「グローバル・インターンシップ」を開講し、地域と協力して地域社会がグローバル社会に対応するための地域活性化の施策を地域行政と協同で取り組むことにより留学生が学術知を実践知として生かす場を構築してきた。また、「グローバル・リーダーシッププロジェクト：大学と地域の協同」と題した実践研究グループプロジェクトにも挑戦し、留学生の自助支援や地域社会との連携を学生が自主的に取り組む挑戦も開始した。また、海外へ留学を希望する本学の在籍学生に対しては、説明会、留学フェア、文化交流会等の開催に加え、本学が積極的に参加している大学間コンソーシアムの INU(International Network of Universities) を活用し、アメリカの大学の教授によるオンライン・ビデオ講義を駆使した国際教養科目を開講し、本学の派遣留学予備軍の養成を目指している。

さらに、2000年より、コンソーシアム型学生交流の促進を目指し UMAP (University Mobility in Asia and Pacific) 事業に参加し、留学した学生の単位互換をより公平、且つ正確に行うため UMAP が開発した UCTS (UMAP 単位互換方式, UMAP Credit Transfer Scheme) を採用し、全協定大学に対する本学の教育プログラムの透明性と互換性を高めて

いる。現在は、UMAP が新たに開発した USCO (UMAP Student Connection Online) 事業にも積極的に参加し、アジア・太平洋諸国の学生交流促進に貢献している。

運営組織としては、HUSA プログラム開始当初から全学組織である短期留学交流部会が全体を統括し、交換留学生の選考、協定大学との調整・交渉、英語による国際教育プログラムの拡充等について検討している。部会は各部局代表委員並びにその他委員により構成されている。また、プログラムを直接管理運営する組織としては、森戸国際高等教育学院の教員 2 名及び留学交流担当の職員がその主たる業務を担っている。

I. 受け入れプログラムの概要

- ・ **受け入れ期間**：一学期または一学年
- ・ **募集人員**：約 100
- ・ **募集方法**：学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する
- ・ **応募資格**：
 - (1) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (2) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者
 - (3) 非英語圏から応募する学生にあつては英語又は日本語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者
- ・ **選考方法**：短期留学交流部会において、協定大学の推薦・UMAP 学習計画書・プログラム参加目的を参考にし、書類選考を行う。
- ・ **学生の身分と受け入れ方法**：学部生は「特別聴講学生」、院生は「特別研究学生」又は「特別聴講学生」（広島大学学生交流規則）として受け入れる、受入れ手続きは国際交流グループが取りまとめて行う。
- ・ **授業料等の不徴収**：交流協定に基づき、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない（なお授業料については、協定において「相互不徴収」について合意する必要がある）。
- ・ **カリキュラム**：HUSA プログラム留学生は、英語及び日本語で開講される本学の科目を幅広く履修可能である。日本語授業は初級・中級・上級の 5 レベルがあり日本事情の科目も開講されている。日本語レベルが上級の学生は、各学部で正規学生用に開設されている授業を受講することができる。授業科目は各学部が開設しているものであり、その統括は各学部で実施されている。また、HUSA プログラム留学生向け「グローバル化支援インターンシップ」も開講し、ビジネスレベルの日本語

を実践の場で生かす場も提供している。

・**受け入れ体制の整備**：(1) 日本における様々な体験学習の場を提供する。(2) 学生宿舎(日本人・留学生混在型)を用意する。(3) 学生サポーターを事前に配置し,受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(4) 入国時身元保証人としては,各指導教官に依頼せず,機関保障(広島大学)とする。(5) 本学が提供する教育の質を保証する活動の一環とし,UMAPの単位互換方式であるUCTSを導入し,単位互換を促進する。

II. 2018-2019年度 HUSA プログラム留学生受け入れ状況

2018-2019年度は53名の留学生を受け入れた。期間は,殆どの学生が1年間の滞在を希望しており,男女別で見ると2018-2019年度 HUSA プログラムに参加した学生数は,男子学生22名,女子学生31名であった。

III. 2018-2019年度 HUSA プログラム受け入れに関する業務及び活動内容

◆ 申請と選考

2018年度募集要項は,2018年1月に各協定大学へ配布され,3月末に各大学から参加希望者が推薦された。推薦された学生について,4月に本学の選考委員会によってHUSAプログラム参加者が正式に決定された。今年度も,受け入れ留学生の申請において,UMAP学習計画書を申請書類の中に組み込み,選考や奨学金の推薦の参考資料とした。2004年度の申請から,受け入れ留学生のオンライン登録システムを導入し,本年度も継続してオンライン登録を使用した。オンライン登録により,学生が直接インターネットから情報を入力し,受け入れ留学生のデータベースが作成できるようになった。システムも毎年整備し,より効率的な形でオンライン登録が可能となっている。HUSA受け入れ留学生が増加していくことが予測される中,今後も学生のデータベース作成及び管理にオンライン登録を活用していきたい。

◆ 渡日前の情報の提供

渡日前のオリエンテーションと日本での生活の準備を兼ねて,広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用 handbook (Information for New Students)」を改訂して各学生に共有した。また,ホームページでHUSAプログラム,広島大学,日本での生活について詳細な情報を提供するとともに,「よくある質問」を掲載し,留学生がよく疑問に思う事項について説明した。学生の個人的な質問等には,電子メール等を活用し直接個々のケースに対応した。

◆ サポーターオリエンテーション

学生サポーターに対し、事前にオリエンテーションを行い、サポーターとしての全般的及び具体的な支援活動の内容について説明した。

◆ 見学・体験学習

2019年2月には、「グローバル化支援インターンシップ」を受講する留学生インターンが担当教員の指導のもと呉市倉橋町で開催される「倉橋フェスティバル」に参加し、地域行政の協力を得て国際交流企画に挑戦した。訪問者12,000人と言われる商業祭において地域住民と留学生の交流の場を留学生の企画により実現する貴重な国際的体験学習の場となった。2018年度秋学期も、例年のように10月に呉市吉浦秋大祭見学ツアーを行い、日本文化の体験学習の機会を提供した。日本の地域に伝わる祭りの歴史と地域社会のしくみについて学ぶとともに来日直後の留学生間及び地域の人々との国際交流の場ともなっている。

◆ 授業科目の開設状況

短期プログラム用の開設科目は、毎年、各学部で審議され、日本語と英語による科目が開講されている。日本語科目は、短期交換留学プログラム用の特設科目となっている。2003年度から初級・中級を特設科目とし、上級の科目は研修生や正規留学生及び研究生と合同で受講することになり、幅広い充実した日本語カリキュラムが組まれている。

◆ 「グローバル化支援インターンシップ」

2003年度より春学期に「HUSA インターンシップ」コースを開設して以来、毎年インターンとして地域企業に2週間派遣してきた。2005年度よりインターンシップ派遣前に事前研修を開始し、インターンシップの準備体制を充実させてきた。2010年度前期より企業体験者を招聘して全学公開セミナーを開き、留学生が本学学生と共に国際的視野から将来を考える場を創出した。また、2010年度後期からは社会体験者講話に基づいたPBL（課題発見解決型学習法）による留学生と本学学生の協同学習も導入し、学生のグローバルな視野からのアクティブ・ラーニングの場を構築してきた。

2012年度秋学期からは、「グローバル化インターンシップⅠ：キャリア理論と実践」・「グローバル化支援インターンシップⅡ：実習」と題して新しく「学生主導型」の交換留学生向けインターンシップの授業を開講した。「派遣型」から「学生主導型」へと新しくパラダイム転換を図った「グローバル化支援インターンシップ」では、留学生の持つ日本文化の観念的知識を地域と協働して地域社会で実践知として生かす国際的体験学習の場を構築している。留学生がリーダーシップを発揮しつつ自らマネジメントを行うプロジェクトは留学生に多角的な学びをもたらしている。2019年度より「グ

ローカル・インターンシップ」として開講予定である。

◆ 多国籍留学生による地域と協働する実践研究グループ・プロジェクト

2015年度より「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト」を実施し、多国籍チームを構成して地域と協働する実践プロジェクトに取り組んでいる。2015-2016年度は「多文化共生への貢献」、2016-2017年度は、「自助支援」、2017-2018年度は「ホームシック対策」、2018-2019年度は「大学における異文化適応と再適応の支援」をテーマとして取り組んだ。地域行政関係者、市議会、学内関係者、学校関係者の参加を得て地域公開の中間発表会・最終発表会を開催して協議する場を持ち、プロジェクトへのフィードバックを得た。「広島大学紹介ビデオ撮影に挑む1」、「HUSA 留学生おすすめリスト」、「留学準備・到着後ガイドブック」、など自助支援のプロジェクト成果の発表があった。留学生の各出身大学における留学のサポートシステムの発表は他大学の支援システムを学ぶことができた。セミナーでは、「カルチャーショックとは」、「留学からの帰国準備：逆カルチャーショック」（恒松担当）などの異文化適応のための講義も行った。

◆ 文化交流支援活動

9月に来日した直後に行う HUSA プログラム・オリエンテーションは2006年度より2日間に渡って行っており、本学で勉学するにあたっての心構えや事務手続きなど全般に渡る指導を行っている。異文化適応についての指導や日本文化理解のためのグループ・ワーク、クラブ紹介、HUSA プログラム参加留学生間の交流及び広島大学の学生との交流並びに先輩からのアドバイスも盛り込み、学生間の交流を促進し、本学での生活に早く慣れるよう企画した。また、留学生を支援するサポーターを、国際交流ボランティア、広島大学電子掲示板を通して募集し、国際交流に関心の高い学生を採用し、充実した支援の提供に努めている。

◆ 地域貢献

2003年から2006年度まで、東広島商工会議所より、国際理解のための留学生の母国についての講話の依頼があり、フランス・韓国(2003)、アメリカ・カナダ・ギリシャ(2004)、ドイツ(2005)、タイ(2006)からの HUSA 留学生が商工会議所を訪問し、母国の文化・習慣や日本との相違について話す体験を持った。担当教員も、2011年度に東広島商工会議所文化交流委員会において、「広島大学の国際化と産学連携：短期交換留学生インターンシップ」と題して講話を行った。2011年度より「グローバル化支援インターンシップ」により地域の国際観光振興や多文化共生の地域づくりに貢献する留学生の国際的体験学習を企画してきた。地域の小学校・中学校・高校における国際交流も企画してきている。これらの体験学習により留学生が日本の地域社会と連携し協働する力の育成を

目指している。広島県立日彰館高等学校による「日彰館高校グローバル人材育成プログラム」では、HUSA プログラム留学生が 2014 年度より「おもてなしホームステイ」に参加し、おもてなしプラン「国際交流行事」（恒松担当）では、2015 年度より、留学生によるスピーチ発表や高校生・教職員・留学生の全員が参加する異文化インタラクシヨンの場を構築している。

◆ HUSA 広報活動

HUSA ホームページにはプログラムの概要、申請方法、スタッフ紹介、HUSA に関するニュース、開講コース案内、インターンシップと産学連携、奨学金・寮・大学施設についての情報、国際交流行事案内、HUSA パンフレット、広島大学及び地域についての情報など、留学に関わる情報が網羅されている。サイトを常に更新し、HUSA プログラムについての最新情報を提供している。2014 年 5 月には HUSA フェイスブックを立ち上げ最新のニュース提供を行っている。また担当教員の研究ホームページにおいて HUSA プログラムの授業や国際教育・異文化間教育等の分野に関する研究の紹介をしている。

◆ HUSA プログラム評価

プログラムの改善に役立てるため、毎学期、HUSA プログラム全体評価、各コース評価を行っている。学生にアンケート用紙を配布、回収し、結果をまとめ、プログラムの改善に役立てている。アンケート調査結果は短期留学交流部会において報告し、改善のための示唆を得ている。

IV. 2018-2019 年度 HUSA プログラム派遣留学に関する活動

本学からの留学生派遣事業に関しては、本年度も 2017 年 12 月下旬に応募者の選考試験を行い、2018 年 1 月上旬には短期留学交流部会で選考を行った。2-3 月には、協定大学への申請手続きを行い、8 月から 10 月に派遣した。オセアニアへは、2019 年の 1-2 月に派遣した。以下は、派遣学生の募集と選考の概要である。

1. 制度の趣旨：

広島大学短期交換留学(派遣)プログラムは、本学の学部生・大学院生が在籍しつつ、学生交流協定に基づいて、海外の協定大学へ 1 学期または概ね 1 年間留学し、専門教育または外国語教育等を受けて単位を取得するものである。本学で単位互換することにより、海外に留学しても通常の修学年限内に卒業できることを目指した制度である。本プログラムは、1996 年後期から開始され、2019 年 3 月現在アメリカ、カナダ、ブラジル、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、インド、インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、モンゴル、中国、香港、台湾、韓国、トルコ、イギリス、オーストリア、オランダ、スウェーデン、スペイン、セ

ルビア、ドイツ、フィンランド、フランス、ポーランド、リトアニア、ロシア、コロンビアにある 93 の協定大学から交換学生を受入れ、同時にそれらの大学へ、本学に在籍する学生を派遣している。また、海外の高等教育機関によって運営されている USAC や UMAP 等のコンソーシアム型の学生交流に参加することで、本学からの派遣国並びに派遣対象大学は拡大し、過去においても本学が独自に協定を持たないガーナ、スタリカ、イタリア、チリ等へも派遣している。さらに非営利団体である「あしなが育英会」とも協定を締結し、留学生を受け入れてきている。

2. 特徴：

- ・ **授業料不徴収：** 本プログラムで留学する学生は、協定大学では授業料を支払う必要がない。
- ・ **奨学金：** 日本学生支援機構による海外留学支援制度、並びに佐藤陽国際奨学財団海外派遣奨学制度等の奨学金が一部派遣学生に支給されている。
- ・ **単位互換制度：** 全協定大学の単位制度に対し、UMAPのUCTSを活用することにより、公平、且つ正確な単位互換を行っている。また、UMAP学習計画書を実施することにより、派遣学生・指導教員・協定大学が、学生の履修計画並びに単位互換に関し、事前に相互に承諾を得ることができ、交換留学の実質的な活動を円滑に進めることができる。
- ・ **現地コーディネーターのアシスタント：** 協定大学の国際室並びに関係部局における本学との交流事業をコーディネートする事務職員と連携し、派遣学生の留学生生活を支援している。
- ・ **短期交換留学生との留学前の交流及び留学後の現地での交流：** 留学前に留学先から本学に留学している学生と交流会を持つことにより、現地での生活の状況、授業やクラブ活動等の学生生活に関する最新の情報等を得ることができる。また、留学後は、帰国した留学生と現地での交友関係を構築しやすい。

3. 出願書類

①派遣申請書

②留学計画書

③外国語検定試験の成績表

(英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・スペイン語の検定試験については、それぞれの検定試験に一定の基準を設け評価している)

④学業成績証明書

4. 出願書類提出先及び締切り

国際交流グループへ例年 11 月末頃までに提出する。

5. 面接（口述）試験

(ア) 学生から提出された申請書類の留学計画を基に例年 12 月の最終授業日の翌日に面接試験を行っている。試験は、広島大学短期留学交流部会の委員による 1 グループ 2～3 名程度の審査員によって実施される。審査員が学生の留学計画、異文化適応能力等についてそれぞれ 5 段階評価をつけ、その平均点を最終審査会の 1 つの評価指標としている。

6. 選考委員会の実施

(イ) 例年 1 月上旬に、広島大学短期留学交流プログラム部会において、派遣留学生の選考を実施している。主に学生の語学能力、面接試験結果、学業成績、留学志望校を考慮し、可能な限り多くの学生を推薦できるよう配慮し、選考及び推薦を行っている。

V. 2018-2019 年度 HUSA 留学生派遣事業の実績

2018 年度の短期交換留学生派遣に関しては、30 名を推薦し、アメリカ、カナダ、イギリス、スウェーデン、ドイツ、フィンランド、フランス、スペイン、韓国、インドネシア、フィリピン、ニュージーランド、中国、にある 13 の協定大学及びコンソーシアム・プログラムの USAC を通じてアメリカの大学へ、UMAP を通じてフィリピンの大学へ派遣した。派遣国は、欧米だけでなく、アジア諸国への派遣も拡大しているが、全協定大学との交流バランスでは受入れ超過傾向にあり、今後もアジアだけでなく欧州諸国への派遣留学も促進する必要がある。また、本学では、協定大学が開講する超短期（1 学期未満）プログラムへの留学も選考、派遣しており、2018 年度は、7 大学（韓国 3 校、ロシア 2 校、台湾 1 校、香港 1 校）へ合計 17 名を派遣した。派遣規模は、年々拡大しており、受入れ超過傾向にある協定大学への通常の 1 学期または 1 年間の派遣を含め、今後も継続して派遣を拡大していく計画である。

VI. HUSA 留学生派遣事業の活動状況

広報活動：2018 年度は、毎年 5-6 月に実施する留学ウィーク並びに説明会、そして担当教職員による交換留学に関するメールや面談による相談に加え、多くの一般学生が集うラウンジに留学情報コーナー及び留学アドバイザーによる留学相談デスクを設置した。その結果、協定大学の紹介や留学までの段階的な留学準備の仕方について興味のある学生は、いつでも情報収集し、留学相談できるようになった。

留学前の情報提供と留学計画の促進：例年、派遣が決定した本学の学生に対し2度（4月と7月）に渡るオリエンテーションを実施しており、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。その学生間の交流は留学後も続き、協定校においても継続的な交流活動が行われている。また、留学前に指導教員及び学部と単位互換について確認する目的で、UMAP 学習計画書をオリエンテーションで配布し、留学前までに提出するよう要求している。

INU 特別協力講義：2018年度も、派遣留学を促進するため、すでに2006年より開講してきた INU 特別協力講義並びに集中講義を実施した。一般の教養科目として開講されている INU 特別協力講義は、INU ネットワークを利用し、アメリカの協定大学の教員によるビデオ講義を活用した WebCT 上で授業を展開するオンライン教育科目である。教育交流部門の教員がそのうちの1科目（特別講義と集中講義合わせて1セットの講義）を担当し、「アメリカの文化と社会」と題し、アメリカ人講師のビデオ講義を基に授業を行った。

VII. その他の主な活動

本学は、学外での活動としてアジア太平洋諸国の政府並びに高等教育機関によって運営されているUMAP（アジア太平洋学生交流機構）の学生交流促進事業に積極的に参加してきた。

2013年5月には、本学の担当教員が、UMAPがこれまで活用してきたUCTS（UMAP単位互換制度）について、新たな概念（Asian Academic Credits, 以下AACs）の導入を提案し、国際理事会にて承認された。

AACs の概念とは、以下の通りである。

1 UCTS=38~48 学修時間数とする。また、その学修時間数には、13~16 時間の授業時間数 (academic hour)が含まれる。

ASEAN+3の13か国政府間でAACs の概念を活用したアジア地域の成績証明・単位互換の枠組の構築が2016年より検討を重ね、AACsは、2018年11月に開催されたASEAN3教育大臣会議において正式に承認された。AACsを新たなUCTSの基本理念として導入することにより、UMAP参加大学の多くの間では、1単位の価値は等価と見なすことができ、単位互換が簡素化され学生交流の促進が期待できる。アジア共通の単位互換制度の構築により、欧米諸国との単位互換も簡素化され、アジアと他地域の学生交流促進にも貢献することが見込まれる。ただし、新たな概念は科目間の内容の互換性を保証する手法が含まれていないため、

今後,さらなる開発が必要である。現在,アセアン諸国等の他の学生交流事業においても,同様の単位互換の概念の導入が検討されている。

海外からの表敬訪問・海外及び国内の大学訪問及び会議への参加等

2018年

- 4月 *University Studies Abroad Consortium (アメリカ,USAC)よりディレクター表敬訪問
- 5月 *Loyola University Chicago (アメリカ) 国際オフィスより表敬訪問
 - *Minnesota State University 国際オフィスより表敬訪問
 - *広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール運営指導委員会出席 (恒松)
- 8月 *広島県立日彰館高等学校訪問「日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 吉舎おもてなしプラン国際交流行事」会議 (恒松)
- 9月 *University of Helsinki (フィンランド) 訪問 (恒松)
- 11月 *University of Minnesota (アメリカ) 国際オフィスより表敬訪問
 - *「地域と協働で創る多文化共生社会」公開国際セミナー開催(「グローバル化支援インターンシップ」)(広島大学国際センター) (恒松)
 - *広島県立日彰館高校グローバル人材育成プログラム120 - 吉舎おもてなしプラン - 「広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会」企画・司会 (恒松)

2019年

- 1月 *広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール「科学英語表現」英語合宿における「異文化理解セミナー」講師 (恒松)
 - *Cardiff University (イギリス) 日本語コースより表敬訪問(Dr. Christopher Hood)
- 2月 *呉市倉橋町「倉橋フェスティバル」における「グローバル化支援インターンシップ」実習 (恒松)
- 3月 *Winter Institute for Intercultural Communication (WIIC), Santa Fe (アメリカ) 参加 (恒松)

日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（非漢字圏）、日本語・日本文化特別研修（長春大学特別支援）、日本語・日本文化特別研修＜受注提供型＞（普台高校）、中国語・中国文化特別研修、華語・台湾文化特別研修、立命館大学連携広島特別研修

荒見 泰史
小宮山 道夫

1. 日本語・日本文化特別研修（中国）（台湾）（非漢字圏）

本プログラムは、母語に漢字を使用する国及び地域にあたる漢字圏と、それ以外の非漢字圏の大学で日本について学んでいる学生を2週間本学を受入れ、研修生が、日本語・日本文化の講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、日中及び日台間そして日本と諸外国との交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として2010年度夏から実施してきたものである。

今年度は、夏期と冬期にそれぞれ、中華人民共和国、台湾、非漢字圏を実施し、通年で6つのプログラムとなった。

夏期（台湾）	7月3日～7月18日	12名
（中国）	7月20日～8月4日	67名
（非漢字圏）	8月18日～9月2日	20名
冬期（台湾）	1月13日～1月28日	10名
（中国）	1月20日～2月3日	86名 + 引率教員1名
（非漢字圏）	2月11日～2月25日	26名

2. 日本語・日本文化特別研修（長春大学特別支援）

本プログラムは、日中の相互理解を促進する人材育成の一環として、身体等の障害により特別の支援を必要とする学生を受け入れるもので、特別支援教育に関するプログラムとして2017年10月より提供を開始したものである。大学院教育学研究科特別支援教育学講座・附属特別支援教育実践センターと共同し、身体等に障害のある学生の修学支援を行っているアクセシビリティセンターの協力を得て実施し、春には聴覚障害者8名と引率教員2名、秋には視覚障害者8名と引率教員2名とを受け入れることができた。

長春大学特別支援（春期）	5月12日～19日	8名 + 引率教員2名
（秋期）	10月6日～13日	8名 + 引率教員2名

3. 日本語・日本文化特別研修<受注提供型>（普台高校）

本プログラムは、従来の日本語・日本文化特別研修をベースに個別教育機関の要求に応じて日程や内容をカスタマイズして提供する特別研修である。日本語・日本文化特別研修と同様に講義、実習・体験、学生交流によって、日本についての理解・関心を深め、帰国後さらに勉強を続けた後、本学へ再び留学し、国際交流に貢献できる人材として成長することを支援することを目的として、2017年度から開始したものである。

今年度は台湾の普台高校から申し入れがあり、来日・出国をあわせて16日間の日程で研修内容を組んで実施した。中学生を含む30名の生徒（中学3年生11名、高校1年15名、2年3名、3年1名）と引率教員2名を受け入れ、日本語及び日本文化の授業と学外研修、学生交流を提供した。このように研修内容を柔軟にデザインすることで個別教育機関の要求を可能な限り受けとめる受注提供型の研修を今後も提供していく予定である。

受注提供型（普台高校）	7月2日～17日	30名 + 引率教員1名
-------------	----------	--------------

4. 中国語・中国文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として長く実施されてきた。また2017年度からは5. 華語・台湾文化特別研修とともに、学生支援機構の海外留学支援制度の援助を受けた「広島大学東アジア展開力強化プログラム」事業の一環とも位置付けられている。その趣旨は、□広島大学の通常学期期間中に実施される外国語トライリンガル特定プログラム、中国文化論などの授業とあわせて現地で学ぶことにより、今日のアジア社会の背景にある歴史、文化、言語、思想、信仰などをより身近に理解する、□研修期間中の学生交流を通じて若者間の人的ネットワークを構築する、□通常学期期間中の特定プログラムなどの授業と組み合わせることにより、継続的に指導を続け、将来的に中国、台湾などへの留学へと導くことが可能である、というものである。

今年度は2018年9月2日から9月24日の日程で17名の研修生を北京の首都師範大学に派遣した。そのプログラムの中心となるのは語学学習のための中国語の授業で、そのほか文化体験（書道、絵画、京劇鑑賞など）、現地学生との交流会がほぼ毎日設定されており、期間中に合計で60時間の学習を行うことになっている。終了後には、学生には修了証と成績書が与えられ、この成績にもとづき広島大学の「海外語学演習」2単位に振り替えら

れている。

5. 華語・台湾文化特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（台湾）との双方向性をもつ派遣研修として 2014 年度から実施されてきた。また、4. 中国語・中国文化特別研修と同様に、2017 年度からは学生支援機構の海外留学支援制度の援助を受けた「広島大学東アジア展開力強化プログラム」事業の一環とも位置付けられている。今年度は、2019 年 3 月 17 日～3 月 29 日の日程で、台北市の輔仁大学に 11 名の研修生を派遣した。4. と同様に語学学習のための中国語の授業を中心とし、そのほか教員引率のもとに実地研修（天燈体験、寺院参拝、故宮博物院見学など）や、現地学生との交流会がほぼ毎日設定されており、期間中に合計で 60 時間の学習を行った。終了後には、学生には修了証と成績書が与えられ、この成績にもとづき広島大学の「海外語学演習」2 単位に振り替えられている。

6. 立命館大学連携広島特別研修

本プログラムは、1. 日本語・日本文化特別研修（中国・台湾）における京都特別研修の双方向性をもつ受け入れ研修として 2016 年度より実施してきたもので、立命館大学にて研修中の留学生に対して教育プログラムを提供するものである。今年度は、6 月 23 日に日帰り日程で来広した米国ラトガース大学および立命館大学の学生 17 名に対し、広島市内での平和学習を提供した。

広島特別研修	6 月 23 日	17 名
	〔内訳：ラトガース大学	10 名 + 引率教員 1 名〕
	立命館大学	7 名 + 引率教員 1 名〕

2018 年度 PEACE 学生交流プログラム

永井 敦

○プログラムの概要

PEACE 学生交流プログラム（CLMV 諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する研究力と社会起業力の融合人材育成）は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、文部科学省が平成 23 年度から実施している「大学の世界展開力強化事業（Inter-University Exchange Project）」の一環として実施されている。本プログラムでは、特に東南アジア諸国連合（ASEAN 諸国）等の大学等との大学間交流を進める、平成 28 年度に採択された 5 年間の補助事業であり、広島大学の 8 学部・研究科および広島経済大学が参画している。交流先は 5 か国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイ）、合計 15 大学であり、本学のターム制も活用した、最長 1 年間の多様で多層的な学生交流を実現している。本プログラムの教育目的として、参加学生の「研究力」およびそれを実生活の問題の解決に応用する「社会企業力」の 2 つの能力の育成を掲げている。

○交流プログラムにおける学生のモビリティ

平成 30 年度はカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム及びタイの 12 大学へ合計 50 名の学生（うち日本人学生 43 名）を派遣し、また、カンボジア、ミャンマー、ベトナム及びタイの 12 大学から合計 38 名の外国人留学生を受入れた。

○教育プログラムの特色（専門教育以外）

◆「国際課題研究」科目

1 ターム以上受け入れる学部留学生には必修科目として提供している科目で、毎回の授業内では学生は自らの研究領域に関するアカデミックプレゼンテーションの練習を行うが、聴衆は当該学生とは研究領域が異なる学生であるため、いわゆる「素人」である聴衆にもわかりやすく、自らの研究成果を説明する技能を身に付けさせることを目的としている（これは研究の社会的還元という意味でも重要であり、また、将来研究資金を獲得する上でも重要な技能である）。また、授業外では、履修者は専門分野の指導教員と専門的な研究プロジェクトを進め、研究力を継続的に高める。

◆「SDGs アイディアマイニングワークショップ」

本学の協定大学であるミュンスター大学（ドイツ）が開発した、参加者の創造力を高めつつ、あるトピックについて解決策を探る、問題解決型ワークショップである。本学の教員がミュンスター大学より専門的な研修を受け、2017年より正式に同ワークショップを提供している。本ワークショップは約8時間（9:00～17:00）の1日がかりのプログラムであり、「持続可能な開発目標」をテーマに問題設定を行い、日本人学生と留学生を参加者として、英語で実施されている。元々はPEACE学生交流プログラム参加学生の教育活動として提供していたが、2019年度から、本学の新生博士課程学生必修科目である、大学院共通科目において、正式な科目として同ワークショップが提供されるなど、新たな展開が行われてる。2018年度は前期に1回、後期に2回のワークショップを実施した。なお、同ワークショップは広島経済大学と合同でも開催しており、2018年度の後期に、同大学が宮島に所有するセミナーハウスを活用して実施した。

◆「PEACE 社会企業セミナー」

PEACE学生交流プログラムにおける連携の1つとして、ビジネスや経営に強みを持つ広島経済大学から特別に講師を招き、広島大学で学ぶ留学生および日本人学生に向けて、ビジネスや経営に関するセミナーを英語で実施している。2018年度は前期および後期にそれぞれ2回ずつセミナーを開催した。

◆「ヒロシマ平和学習」

本プログラムに参加する留学生全員に平和学習の機会を提供している。2018年度は前期と後期にそれぞれ1回ずつ、広島市の江波山気象館（原子爆弾と気象の関係についての講義聴講）と平和記念公園（被爆体験講話の聴講）および平和記念資料館の訪問を実施した。また、広島大学が平和企画の一環として実施する平和交流行事（被爆者の方々との文化交流含む）についても、本プログラム参加学生に積極的に情報発信しており、PEACE交換留学生の多くが参加している。2018年度は8月6日に開催された広島大学原爆死没者追悼式と平和企画（タイムカプセル記念式および学生による平和についての討論会）に参加している。

◆「PEACE カンボジアスタディツアー」

2017年度より、CLMV諸国への関心を高め、より中長期の海外留学への挑戦を促すことを目的とした約1週間の短期派遣プログラム「カンボジア・スタディツアー」をPEACE学生交流プログラムの枠組みの中で実施している。現地では文化史跡の訪問のみならず、JICAの現地事務所の訪問、現地で活躍するNPOの訪問、また、現地協定大学において文化・歴史・経済などについて特別講義を英語で受講し、現地で、カンボジア人大学生とと

もにアイデアマイニングワークショップに参加する（引率教員がファシリテーションを行う）。2018 年度からは新たに王立ブノンペン大学とオンライン国際連携学習（COIL）として、HU-RUPP COIL Project を実施、「平和」をテーマに本学の学生と王立ブノンペン大学の学生が協働プロジェクトを行い、カンボジア訪問中に合同の成果報告会を開催した。

○プログラム実施に伴う情報の公開や成果の普及

PEACE 学生交流プログラムの教育目標及び授業科目一覧に加えて、大学の基本情報や生活に関する基本情報をまとめた冊子「Information Package」の作成及び広島大学への留学を希望する学生へ配布している。また、プログラム公式ウェブサイトまたは SNS（日本語版及び英語版）を通じた、学生交流プログラムに関する情報及び参加学生からのメッセージを積極的に発信している。

<参考>

PEACE 学生交流プログラム HP

<http://peace-program.hiroshima-u.ac.jp/>

PEACE 学生交流プログラム Facebook

<https://www.facebook.com/PEACE.program.Hiroshima/>

海外日本語教員ブラッシュアップセミナー

柳本大地

1. セミナー概要

7月21日から8月2日まで森戸国際高等教育学院にて海外日本語教員ブラッシュアップセミナーを企画・運営した。本セミナーは2018年から始まり、今回で第2回目となる。今回の参加者は、中国の大学から14名、インドネシアの大学から2名、の計16名であり、それぞれの国の大学で現在日本語を教えている教員であった。

本セミナーは、日本国外で日本語を教える日本語を母語としない大学教員を対象に、日本語力、日本語教授力、研究力という3つの柱を置きそれらの向上を図ることを目的として行われた。また、個々のニーズに合わせた課題を設定するために事前に個別ニーズ調査を行い、各参加者が上記の3つの能力の向上するための具体的な課題・目標値を提案し、参加者が目標を明確化した上で個別課題に取り組んだ。

2. プログラム概要

<課題学習>

個別の課題を行うニーズ調査によって参加者の多くが、自国で日本語を教える際、自身の日本語の流暢性という部分に不安を抱えていることがわかった。この課題点を改善する手立てとして、シャドーイングを導入し、セミナー中、継続して行った。また、参加者には4名につき1担当者がシャドーイング及び、個別課題研究のサポートを行った。

<技能別指導>

日本語力の課題として、「聴解」「読解」を、研究力の向上として「発表」という、3つの課題の達成を目指した。「聴解」「読解」の授業では、日本語能力向上を目指すとともに、聴解や読解をどのように指導すべきかについての議論が行われた。

<授業見学・授業分析>

本学に所属するすべての留学生を対象に行っている森戸国際高等教育学院の日本語の授業を見学した。授業見学後には、授業分析の時間を設け、授業を客観的に分析することにより、より良い日本語授業に必要な点について議論した。

<特別講義>

セミナーの柱である日本語教授力と研究力の向上のための特別講義として2名の講師を

招聘した。セミナー前半部には、アクラス日本語教育研究所の嶋田和子氏による「教授法概論」の講義、セミナー後半部には麗澤大学の井上優氏による「言語研究概論」の講義が行われた。

<日本語教育セミナーの参加>

中四国の日本語教育に携わる教員を中心に行われた「日本語教育セミナー」に参加。特別講演として、オーストラリア、UNSW 大学 (the University of New South Wales) のトムソン木下千尋氏からは「つながる実践コミュニティー」の題目で UNSW 大学の日本語教育における様々なコミュニティ作りとその役割についての講演が行われた。また、ワークショップとして、長崎大学の古本祐美氏から「『わかる』を『できる』に変えるシャドーイング」をテーマとし、大学の日本語授業におけるシャドーイングの取り組みについての実践例の紹介、広島国際大学から川崎千枝氏から「ICT で広がる日本語学習と指導の可能性」をテーマに、ICT を活用した教室活動に関する発表があり情報共有・意見交換が行われた。

<研究発表>

個別研究課題に関するセミナーの集大成として、参加者一人一人がポスター発表形式で研究内容の発表を行った。短期間であったため、多くの発表者が具体的な研究を開始する前段階での発表となったが、セミナー終了後にも継続して取り組むことができる研究の具体的な方向付けを行う機会となった。

3. おわりに

セミナー後に実施したプログラム評価アンケートの内容から、参加者が概ね充実したセミナー期間を過ごしたことが窺えた。他方、2 週間という限られた期間内で参加者が自身のペースで進めることができる内容の分量について、整理を行う必要性も感じられた。次回実施に向けて改善、調整を行っていきたい。

平成 30 年度 ダルマプルサダ大学（インドネシア） における日本語教員研修の報告

山中康子

はじめに

本稿は、広島大学と国際交流協定のあるダルマプルサダ大学にて 2019 年 3 月に行った日本語教員研修の報告である。なお、この研修は 2018 年度に引き続くものである。

本教員研修は、平成 30 年度国際交流基金ジャカルタ日本文化センター日本語事業部さくらネットワーク助成を受けて、ダルマプルサダ大学が行ったものである。この助成対象事業概要は「広島大学を中心とした日本語作業部会（他に東海、東洋大学）が中心となって改訂したカリキュラム改革に伴って、高度な知識を学生に教授するための常勤講師の日本語能力、及び指導技術の向上」である。また、今回の直接の助成対象は「日本語教師のためのシャドーイングを用いた N2 取得セミナー、教える技術（ビジネス日本語や「作文・発表」の教え方）の指導」となっている。筆者は昨年度に引き続き本研修の主要協力者として招かれ、上述の技術指導担当者およびセミナー講師を務めた。

研修の概要

期間 2019 年 3 月 21 日～29 日

実施日程は下の通り

日付		研修内容
3 月 21 日	木	「ビジネス日本語」教え方ミニセミナー・ワークショップ
3 月 22 日	金	調査（事前テスト・午前）全体会（午後）
3 月 25 日	月	「作文」ワークショップ・個別指導
3 月 26 日	火	N2 取得のための勉強会・「日本語教師の役割」セミナー
3 月 27 日	水	「発表」ワークショップ・個別指導
3 月 28 日	木	個別指導
3 月 29 日	金	調査（最終テスト・午前）・公開セミナー（午後）

参加者

基本的には、ダルマプルサダ大学日本語文学部常勤講師であるが、一部、同大学の非常勤講師も加わり、全体会には毎回 25 名程度、ワークショップ・ミニセミナーへは各 15～20 名程度の参加があった。公開セミナーには、近隣の大学講師・高等学校教師も加わり、100 名ほどが参加した。

内容

大きく以下の1～3に分けて行った。また、公開セミナーとして3月29日午後「初級からタスクを取り入れることについて考えるータスクを生かした日本語の授業ー」と題する講演を行った。

1. 全体会

- a) シャドーイングを用いたN2取得の日本語力向上プログラム
- b) 日本語教授法について復習するためのミニセミナー

参考資料：国際交流基金『日本語教師の役割／コースデザイン』

研修結果の「可視化」を意図して、全体会を始める前と研修の最終日に、1) 紙媒体のSPOTテスト、2) 音読テスト、3) テーマに沿った1分間スピーチを実施した。この結果については、別稿で論じたい。

a) については、初回(3月22日)にシャドーイングの効果および実施方法を解説し、毎日の実践を指示した。成果確認のため、音声ファイルのメールでの提出を依頼した。2回目(3月26日)にも練習方法を確かめ、途中経過を確認した。

b) については、広島大学インキュベーション研究拠点「教育ヴィジョン研究センター(EVRI)」による海外研究交流拠点(HUGLI: Hiroshima University Global Learning Institute)の開発と活性化に努める活動の一環で、永田良太教授(日本語教育学講座)により平成30年度2度に分けて行われた日本語教授法の講義について復習することと、日本語読解力向上を目的とし、国際交流基金日本語教授法シリーズ『日本語教師の役割／コースデザイン』をテキストとして速読を課し、加えて質疑応答の形で進めた。(永田教授の2回目の活動は10月29日～11月2日に行われた。

参照<<http://evri.hiroshima-u.ac.jp/2356>> (公開日：2018年11月22日)

2. ワークショップ

ビジネス日本語に関する概説およびワークショップ、「作文」「発表」に関するワークショップを行った。

ビジネス日本語に関しては、ダルマプルサダ大学の新カリキュラムで新しく増えた科目であるため、ワークショップの前に、BJTビジネス日本語能力テストの紹介とビジネス日本語の授業に関する概論をセミナーの形で扱った。そののち、ワークショップ形式で、シラバスをチェックし、各授業の構成について考える時間を設けた。

「作文」「発表」の授業は、新カリキュラムでは旧カリキュラムとの扱いが異なるため、セミナー講師をアドバイザーとし、ダルマプルサダ大学の授業担当教員主導で教授内容に

関するワークショップを行った。

3. 個別・グループ指導

個々の教師が日頃疑問に感じていること、また、ワークショップでの「課題」について、個別あるいはグループで、セミナー講師との面談時間を設けた。

所感・今後への提言

昨年度の反省から、主にシャドーイングを用いた研修結果の「可視化」を目指し、事前事後の調査を行った。この結果については、現在別稿での論述を計画している。詳細はそちらに譲りたい。

ここでは、その他の研修内容に関して、講師を務めた筆者の所感と、今後への提言を述べたい。

昨年度の教員研修会から見えた問題点は、大きく3つあった。教員側の日本語力に問題が見られるもの、基本的な語学の授業の流れがはっきりしないもの（教授法の理解不足）、教室活動を行う技術が足りないもの、である。今年度は、研修の主催側であるダルマプルサダ大学の要請を受けて、昨年度からの継続で教員の日本語力向上を図り、また、新カリキュラム実施のために必要な知識・技術習得を目指して研修を行った。これらは、昨年度判明した問題点を解消するための継続的な試みと言えよう。

以下に気付きを詳述し、今後への提言を述べる。

1. 全体会について

昨年度は主にN2の問題演習を中心としたが、今回は具体的な問題以前の、日本語の基礎力向上を目指して、シャドーイングを取り入れた研修とした（前述の内容1. - a)）。実施期間が短かったため、結果が目に見える形で出るかは、今後の分析を待ちたいが、日本語教師であっても毎日「日本語力向上」のための行動が必要であることの自覚と、具体的な活動の動機付けに役立ったのではないかと考えている。

また、ワークショップを円滑に進めるために、日本語教授法について復習ミニセミナー（同1. - b)）を行ったが、これは、同時に日本語読解力の向上も図ったものである。短期の講座で扱われた内容に習熟するために、この復習は役に立ったと考えている。

今後も日本語能力の底上げを目差し、継続的な研修・研鑽ができる「しかけ」を模索していきたい。

2) ワークショップについて

昨年度は大学側から求められていた教員側の主体的な勉強会というより、研修会講師主導になってしまったことを反省した。今年度は、もともとダルマプルサダ大学側から要請のあった内容について、授業担当教員を中心としたワークショップ形式の研修とした。ここでは、実際に授業を担当する教員たちの能動的な活動が見られ、セミナー講師はアドバイザーの役目に徹することができた。(資料 写真1, 2 参照)

やはり、与えられた課題ではなく、自らが求めた課題に関する研修である点がその原動力になっているのであろう。

付け加えると、このワークショップは、広島大学大学院教育学研究科の仁科陽江教授(日本語教育学講座)と徳永崇准教授(音楽文化教育学講座)がダルマプルサダ大学を訪問し行った、教育研究交流の可能性についての意見交換の報告の中で、「日本人派遣講師による教員研修」として既に報告されている。これは、広島大学の海外研究交流拠点(HUGLI: Hiroshima University Global Learning Institute)の開発と活性化活動の一環として、2019年3月21日(木)から23日(土)にかけて行われたものである。(参照<<http://evri.hiroshima-u.ac.jp/5079>>公開日:2019年05月21日)。

3) 個別・グループ指導について

昨年度は、研修の主たる部分がN2の問題演習であったためか、全般的に日本語そのものに関する質問が多かった。今年度は、ワークショップ時に出た今後の課題への取り組みについて授業案を示してアドバイスを求める、現在取り入れている教授法に対する疑問点を質問するなど、「日本語を教える」ことに関する内容が多くなった。教員研修を重ねることで、教員としての向上心がより示されてきたと感じた。

4) 公開セミナーについて

国際交流基金助成プログラムの義務としての公開セミナーとして、今年度は「初級からタスクを取り入れることについて考えるータスクを生かした日本語の授業ー」と題する講演を行った。昨年度も今年度も、研修期間中にアドバイスを求められた疑問点には共通点があった。それは従来型の「文型中心」とした「型」に囚われた授業形態での「つまずき」と言えるものであった。従来の「文型中心」の授業は、一方的な知識の伝達のみになり、タスクも「文型練習」目的だけになりがちだという弊害がある。また、筆者自身、現場の教師という立場から、長年用いてきた授業の「型」を変えることの難しさはよく理解しているつもりである。そこで、与えられた「文型」の練習としてではなく、たとえ人工的であっても、「タスク」を達成することから学ぶ「タスク・ベースの指導法」の考え方を紹介した。また、シラバスや教材の制約が多い、教育機関での一教師である我々が、それをど

のように実践できるか、その可能性について講演した。今年度は事前に質問は集めておかなかったが、その場で参加者からの質問も多く出て、活発な質疑応答が行えた。昨年同様、参加者は近隣の大学講師、および高校教師で、大学と高校では、置かれている状況にも、公開セミナーに求める情報にも大きな違いがある点は変わらない。しかし、今年度は語学教育におけるタスクの有用性という共通部分を扱ったため、所属とは関係なく講演内容が受け止められたと感じた。今後のセミナーも参加者の所属先の違いへの配慮は欠かせないであろう。(資料 写真3～5参照)

以上、今回の研修内容についての報告である。

このさくらネットワーク助成を受けての日本語教員研修は、令和1年度も申請が受け入れられ、3年目も継続できるとのことである。また、今回の研修内容について、4月に学長・副学長の前で、終了後の報告会を行ったとの連絡を受けている。この教員研修はダルマプルサダ大学が主体で行うものであり、セミナー講師はいわゆる「雇われ講師」にすぎない。しかしながら、今後もこのような形での教員研修が続くのであれば、計画性をもって臨んだほうがよいであろう。そこにダルマプルサダ大学と広島大学とのより積極的な連携が必要ではないだろうか。その実現のため、広島大学内でも森戸国際高等教育学院や教育ビジョン研究センター (EVRI) 他、横の連携を密にし、継続的かつ総合的な交流を進める枠組みができることを望んでいる。

参考文献

- 小口悠紀子 (2018) 「日本語教育における Task-Based Language Teaching (TBLT) の実践に向けた試みータスクの設計に焦点を当てて」『人文学報』514-7, 首都大学東京人文科学研究科
- 百濟正和 (2013) 「TBLT の日本語教育への応用と実践ータスク統合型の言語教育デザインに向けて」『第二言語としての日本語の習得研究』16, 74-90, 第二言語習得研究会
- 国際交流基金 (2006) 『日本語教授法シリーズ 第1巻 日本語教師の役割/コースデザイン』ひつじ書房
- 国際交流基金 (2007) 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第6巻 話すことを教える』ひつじ書房
- 松村昌紀 (2012) 『タスクを活用した英語授業のデザイン』大修館書店
- 松村昌紀 (2017) 『タスク・ベースの英語指導ーTBLT の理解と実践』大修館書店
- Ellis, R. (2003) Task-based Language Learning and Teaching, Oxford: Oxford University

Press.

広島大学「ダルマプルサダ大学（インドネシア）の先生方へ日本語教授法の講義を開催しました（2）」<<http://evri.hiroshima-u.ac.jp/2356>>（公開日：2018年11月22日）

広島大学「ダルマプルサダ大学で教育研究交流の可能性について意見交換を行いました」<<http://evri.hiroshima-u.ac.jp/5079>>（公開日：2019年05月21日）

資料



写真1：ワークショップの様子その1



写真2：ワークショップでの様子その2



写真3：公開セミナーの様子



写真4：公開セミナー（質疑応答の様子）



写真5：公開セミナー参加者と

研究・その他の活動（2018年4月～2019年3月）

1. 研究論文・著書・研究ノート

- 迫田久美子（2018）「コミュニケーション能力を伸ばすには？—コーパスから学ぶ学習者中心の教え方—」『キルギス日本語教育研究』3号，pp.4-11. キルギス共和国日本語教師会，査読なし，国際学会
- Tsunematsu, Naomi (2018). "Multinational Students' Voices in International Experiential Learning: Standpoint of Culturally Diverse Teams inside Power Relations in Japanese Society," CHER (Consortium of the Higher Education Researchers) 30th Annual Conference, Conference Paper
- 永井敦（2018）「BEVIによるショート・ビジット型留学プログラムの効果分析：「グローバル人材」は育成できるのか？」『広島大学留学生センター紀要』第22号，pp.38-52
- 永井敦（2019）「BEVIとIDIの比較：その基本的特徴と妥当性に関するエビデンス」『広島大学森戸国際高等教育学院紀要』第1号，pp.7-14.
- 中川正弘「Roland Barthes : *Le Degré zéro de l'écriture* — 日本語翻訳と文体の相対化 —」，『広島大学フランス文学研究』第37号，2018年，pp.23-46（広島大学図書館リポジトリ登録公開版には補遺34頁付）
- 深見兼孝「韓国語におけるㄹ, ㄹ: 半世紀の違い(?)」『広島大学森戸国際高等教育学院紀要』第1号, 2019年3月, pp.1-5
- 深見兼孝「現代日本語の「デ格人数構文」に関する一考察」『総合学会誌』第18号, 2019年3月, pp.35-41（査読付き）
- 柳本大地「シャドーイングの初級日本語クラスの導入と経過」『広島大学留学生教育』第22号，28-37，2018年
- 柳本大地『2019年 日本語教育能力検定試験 合格するための本』(区分3 言語と心理)，76-89，2018年（部分執筆）

2. 学会発表

Tsunematsu, Naomi, "Value of Educational Intervention in Cooperative Experiential Learning for Multinational Students in Study Abroad Programs in Japan", 日本比較教育学会第54回大会, 広島大学, 2018年6月23日

恒松直美 「日本への留学後の再適応：逆カルチャーショック」2018年度春季日本総合学会大会（広島大学東千田町キャンパス）, 2018年6月30日

Tsunematsu, Naomi, "Reverse Culture Shock After Going Home from Japan: Holistic Picture of Study Abroad," 留学生教育学会第23回年次大会(総会・研究大会), 広島大学, 2018年9月8日

深見兼孝 「現代日本語の「名詞1のように+連体修飾語+名詞2」型の直喩表現について」, 2018年度日本総合学会春季大会, 広島大学（千田キャンパス）, 2018年6月30日

深見兼孝 「現代日本語の「デ格人数構文」に関する一考察」, 2018年度韓国日本語学会秋季大会, 中央大学校（韓国）, 2018年9月15日

深見兼孝・柳本大地 「初級日本語におけるシャドーイング：試験的実践報告と今後の方向性」(科学研究費助成事業基盤研究C（一般）18K00688), 2018年度日本総合学会秋季大会, 東京工業大学 CIC キャンパスイノベーションセンター, 2019年1月12日

韓蘭靈・柳本大地 「中国の日本語教育現場に即した高等能力評価基準の作成とその課題—日本語母語話者教室中国語母語話者教師間の評価基準に見られる相違に着目して」『2018年度日本語教育学会秋季大会』, プラザヴェルデ（静岡県沼津市）, 2018年11月24日～25日

徐婕・柳本大地・徐暢 「中国語を母語とする上級日本語学習者における中日2言語間の同形動義語と異形語の意味処理について—単語—線画マッチング課題と視線追跡法を用いた実験的検討—」, 『第29回第二言語習得研究会（JASLA）全国大会』, 鹿児島大学郡元キャンパス（鹿児島県鹿児島市）, 2018年12月18日～19日

3. 学術研究補助金

恒松直美 科学研究費補助金(C)「日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に与える影響のホリスティックな研究」(2017-2020)

4. その他の活動

A. 地域貢献、社会貢献

恒松直美 広島大学「グローバルインターンシッププログラム」(G.ecbo) 運営委員

恒松直美 広島大学附属高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール研究協力委員

恒松直美 教育開発国際協力研究センター(CICE)学内客員研究員

恒松直美 HUSA プログラム「グローバル・リーダーシップ・プロジェクト：大学と地域の協同」

永井敦 広島大学平和企画：平成原爆焼の制作，粘土形成作業（被爆者と広島大学 PEACE 学生交流プログラム留学生の国際交流におけるコーディネート及び通訳），広島原爆養護ホーム 舟入むつみ園, 2018年5月21日～25日

永井敦 広島大学平和企画：平成原爆焼の制作，絵付け作業（被爆者と広島大学 PEACE 学生交流プログラム留学生の国際交流におけるコーディネート及び通訳），広島原爆養護ホーム 舟入むつみ園, 2018年6月25日～29日

永井敦 広島大学平和企画：平和に関する学生の意見交換会（日本人大学生及び留学生の平和に関する意見交換会におけるファシリテーション及び通訳），広島大学 東千田キャンパス, 2018年8月6日

永井敦 広島大学平和企画：被爆者の方々と本学留学生の書道による交流（被爆者と広島大学 PEACE 学生交流プログラム留学生の国際交流におけるコーディネート及び通訳），広島原爆養護ホーム 舟入むつみ園, 2019年2月22日

B. 学会活動

恒松直美 日本総合学会 監事

中川正弘 広島大学フランス文学研究会 参与

深見兼孝 西日本言語学会 運営委員

深見兼孝 日本総合学会 理事

深見兼孝 韓国学研究会 会長
深見兼孝 韓国日本語学会 海外理事

C. 講演・ワークショップ等

迫田久美子 「日本語教育におけるコミュニケーション能力の養成—持続可能な社会の構築を目指して—」, 中國文化大學外國語文學院日本語文學系國際學術研討會(基調講演), 中国, 2018年5月19日

迫田久美子 「コミュニケーション能力を伸ばすには?」, 第2回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会(基調講演), キルギス, 2018年8月25~26日

迫田久美子 「学習者コーパス研究の可能性—日本語学習者のデータから学ぶ日本語の教え方—」, 西安日本語教師研修会(基調講演), 中国, 2018年10月20日

迫田久美子 「学習者のデータから考える日本語教育—理論は実践に役立つか—」, 国際交流基金主催第四回シンポジウム「日本語教育の理論と実践を繋ぐ」(基調講演), 2019年3月16~17日

恒松直美 「日本文化理解グループ・ワーク」, 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)オリエンテーション, 2018年9月27日

恒松直美 “Success Tips: Connecting with People”, 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」, 第1回中間発表会, 2018年1月24日

恒松直美 “What is Culture Shock?” 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」, 第2回中間発表会, 2018年4月18日

恒松直美 “Preparing to Return Home: Reverse Culture Shock”, 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」, 最終発表会, 2018年7月24日

恒松直美 “Meaning of Experiential Learning and Cooperative Learning”, 広島大学短期交換留学プログラム(HUSA)「グローバル・リーダーシップ実践研究プロジェクト: 大学と地域の協働」, プロジェクト企画発表会, 2018年12月12日

恒松直美 広島大学附属高校スーパーサイエンス・ハイスクール, 英語合宿「異文化

コミュニケーション・セミナー」, 2019年1月26日, 広島大学学生プラザ

恒松直美 「吉舎おもてなしプラン」国際交流行事企画運営, 広島県立日彰館高等学校 :
グローバル人材育成プログラム120 (日彰館高校と広島大学短期交換留学プログラム留学生との国際交流会) , 2018年11月10日

恒松直美 「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～(Global Society・University・Local Society)」, 広島大学公開講座, 2018年7月3日, 7月10日

永井敦 「World Englishes」(「国際交流会」における講演), 広島県呉市立阿賀小学校, 2019年1月15日

永井敦 「Global Englishes」(「分野別学習 : 言語学・文学分野」における講演) , 岡山県立岡山大安寺中等教育学校, 2019年2月5日